

全11科目 上級コース 科目別戦略

近年の本試験の出題傾向を
理論問題や計算問題別に掲載！
その対策としてTAC上級コースで
“合格を勝ち取るための”
【講義】や【演習】の学習内容や
“ねらい”を公開！

▶コース選択Checkシート付◀

TAC上級コース「簿記論」

第一問・第二問 (学者試験委員) の出題傾向

- ・複数の処理があるものについてそれらの処理を比較する問題が出題されている。
- ・取引当事者の双方の処理を問う問題が出題されている。
- ・取引が発生してから終了するまでの処理を問う問題が出題されている。

その対策 【講義】

【講義】では、先に基本論点を集中的に学習していきます。学者試験委員の問題は幅広く出題がされている傾向があるのですが、基本論点が出題された場合、得点しなければならないケースがほとんどだからです。また、トレーニングを活用して、個別問題の解答方法も紹介していきます。

その対策 【演習】

【演習】では、本試験で出題された問題の形式を踏襲して出題していきます。これにより、過去問を積極的に解かなくても、本試験で出題された形式やパターンを上級演習で習得していくことができます。また、近年の出題形式に重点を置いて問題を作成しているため、次回の本試験を受験するにあたり、非常に有利になります。

第三問 (実務家試験委員) の出題傾向

- ・実務家試験委員問題は必ず総合問題が出題されている。
- ・解答要求は決算整理後残高試算表または財務諸表の金額算定である。
- ・「請求書」や「当座勘定照合表」など実務上取扱うような資料が与えられるため、読み取りが難しい。

その対策 【講義】

【講義】では、実務家試験委員の問題は得点すべき箇所が毎年類似している点に着目し、得点源となる箇所を早めに学習していきます。まずは得点源となる論点の精度とスピードを高め、得点の土台としていけるよう目指していきます。

その対策 【演習】

【演習】では、毎回60分総合問題を出題することで、上級演習で紹介した解き方等が習得できているかを確認していくことができます。また、「千円単位消費税なし」から始め、「千円単位消費税あり」「円単位消費税あり」へと難易度やボリュームもステップアップしていくように作成しています。これに加え、各回の上級演習で本試験で出題された資料の形やパターンも学習していくことで、次回の本試験を受験するにあたり、非常に有利になります。

上級コース「簿記論」のカリキュラム (全49回)

基礎・応用期(4月末まで)

インプット
上級講義 15回
アウトプット
上級演習 15回

講義と問題演習を交互に実施していくことで、論点確認とアウトプット学習を通じて実践で活かせる実力を養っていきます。また、一定のサイクルで本試験レベルの質の高い問題を繰り返し解くことで、合格可能性がさらに高まります！

直前期(5月以降)

インプット	アウトプット
直前対策講義 9回	全国公開模試 1回
合格情報講義 1回	
アウトプット	
実力完成答練 6回	
直前予想答練 3回	

4月期までに十分なトレーニングを積むことから、5月期からの直前期では、各種答練はもとより直前講義でも問題演習を織り交ぜて、より実践的な内容に取り組みます。また、税制改正・試験委員対策なども行い、万全の態勢で本試験に挑みます！

TAC上級コース「財務諸表論」

理論問題の 出題傾向

- ・比較的难度の高い問題が出題されることが多い。
(予想合格点：10～15点／25点)
- ・理論テキストで覚えた文章をそのまま解答させるような問題が出題される。
- ・理解力を問うような論述問題や、記号選択問題等も出題される。

その対策 【講義】

【講義】では、基本論点から応用論点まで網羅的に学習していき、理論を暗記するための土台作り及び応用問題に対応できる理解力の養成をしてきます。また、TACの理論テキストは、“暗記重視”の理論と、“理解重視”の理論を明確に分類しているため、効率的な学習が可能となっています。

その対策 【演習】

【演習】では、近年の試験傾向を踏まえ、基本論点から応用論点をバランスよく出題していきます。15回の演習を通じて、本試験レベルの理論問題について合格答案を作成する力を身に付けていきます。

計算問題の 出題傾向

- ・決算整理型の総合問題が出題される。
(予想合格点：30～35点／50点)
- ・毎年出題される論点は一定であるため、対策しやすい。
- ・一部、取捨選択を要する応用問題も出題される。

その対策 【講義】

【講義】では、本試験で毎年出題される重要論点を確認するとともに、応用的な論点まで幅広く確認していきます。また、講義内においてトレーニング問題等を活用し、過去の本試験問題や個々の論点の集計方法なども紹介していきますので、上級コースを通じて計算力の向上が期待できます。

その対策 【演習】

【演習】では、過去の本試験を踏まえ、基本論点から応用論点まで様々な出題形式を想定した問題を出題していきます。15回の演習を通じて、基本論点の再確認と応用力を養うことにより、皆さんの計算力をより高いレベルに引き上げます。

上級コース「財務諸表論」のカリキュラム (全49回)

基礎・応用期(4月末まで)

インプット
上級講義 15回
アウトプット
上級演習 15回

講義と問題演習を交互に実施していくことで、論点確認とアウトプット学習を通じて実践で活かせる実力を養っていきます。また、一定のサイクルで本試験レベルの質の高い問題を繰り返し解くことで、合格可能性がさらに高まります！

直前期(5月以降)

インプット	アウトプット
直前対策講義 9回	全国 公開模試 1回
合格情報講義 1回	
アウトプット	
実力完成答練 6回	
直前予想答練 3回	

4月期までに十分なトレーニングを積むことから、5月期からの直前期では、各種答練はもとより直前講義でも問題演習を織り交ぜて、より実践的な内容に取り組みます。また、税制改正・試験委員対策なども行い、万全の態勢で本試験に挑みます！

TAC上級コース「法人税法」

理論問題の 出題傾向

- ・法人税法の基本的な規定や改正項目で未出題の論点が出題される。
- ・意義を中心に規定の記述が求められる。
- ・事例に基づき課税関係の説明が求められる。

その対策 【講義】

【講義】では、理論マスターを使って規定の解説から、理論ドクターを利用して応用、事例理論対策を行います。また、テキストに掲載されている質疑応答事例（出典：国税庁HP）や通達の中から理論対策に関連する内容を確認することにより、さらなる知識の習得を行います。

その対策 【演習】

【演習】では、重要理論の中から、意義、取扱いの内容など規定の中心部分を出題することにより正確な知識が身についているかを確認するとともに、事例的な出題もすることにより課税関係の説明能力を高める対策をしています。

計算問題の 出題傾向

- ・グループ法人税制や役員給与など特定の論点に的を絞った個別問題が出題される。
- ・政令や通達レベルの細かい知識が必要とされる。
- ・計算過程の中で判定理由などのコメントによる説明が求められる。

その対策 【講義】

【講義】では、計算テキストを中心に基本論点から応用、研究論点まで幅広く確認するとともに、過去問や通達、質疑応答事例など豊富な材料を用いながら細かな知識の習得を行います。

その対策 【演習】

【演習】では、従来からある別表4作成型の演習だけでなく、近年の本試験問題を参考に、近年の本試験問題に類似した個別問題形式による演習や計算過程に判定の理由を記載するコメントの練習などを行うことにより試験への対応能力を高めていきます。

上級コース「法人税法」のカリキュラム(全49回)

基礎・応用期(4月末まで)

インプット
上級講義 15回
アウトプット
上級演習 15回

講義と問題演習を交互に実施していくことで、論点確認とアウトプット学習を通じて実践で活かせる実力を養っていきます。また、一定のサイクルで本試験レベルの質の高い問題を繰り返し解くことで、合格可能性がさらに高まります！

直前期(5月以降)

インプット	アウトプット
直前対策講義 9回	全国 公開模試 1回
合格情報講義 1回	
アウトプット	
実力完成答練 6回	
直前予想答練 3回	

4月期までに十分なトレーニングを積むことから、5月期からの直前期では、各種答練はもとより直前講義でも問題演習を織り交ぜて、より実践的な内容に取り組みます。また、税制改正・試験委員対策などを行い、万全の態勢で本試験に挑みます！

TAC上級コース「所得税法」

理論問題の 出題傾向

- ・規定同士のつながり等、法律の体系的な理解が問われる問題が出題される。
- ・特に改正点・トピック事項・損失関連は要注意。
- ・個別理論がそのまま出題されることもある。

その対策 【講義】

【講義】では、まず基本となる理論マスターの個別理論の確認を行います。そして、理論マスターの個別理論の規定そのものを理解し、また、他の理論マスターの問題との関係といった体系的な理解へ発展させていきます。

その対策 【演習】

【演習】では、個別理論の精度を高めていきます。また、本試験の出題のうち、個別理論の抜き出し方に対応できるようにしていきます。また、最近では解答のボリュームが多い問題や少ない問題も出題されていることから、解答量に応じて計算問題とのバランスを図るといった練習も行います。

計算問題の 出題傾向

- ・近年では、総合問題が2題出題されている。
- ・実務的な視点からの出題が多い。
- ・出題される論点が多岐にわたり、かつ、難易度・ボリュームもマチマチであるため、解答順序によって得点に差が出やすい。

その対策 【講義】

【講義】では、本試験での頻出論点を中心に確認を行い、必要十分な知識を身に付けていきます。また、本試験で出題済みの論点や未出題の論点ではあるが出題可能性の高い論点を確認することにより、計算の知識を万全なものにしていきます。

その対策 【演習】

【演習】では、基本的な問題から本試験レベルの難易度の高い問題まで、様々な難易度・タイプの問題を出題していきます。これにより計算力を高めていくとともに、解答順序などの問題に対する取り組み方に磨きをかけることで、合格できる答案作成能力が身につきます。

上級コース「所得税法」のカリキュラム (全49回)

基礎・応用期(4月末まで)

インプット
上級講義 15回
アウトプット
上級演習 15回

講義と問題演習を交互に実施していくことで、論点確認とアウトプット学習を通じて実践で活かせる実力を養っていきます。また、一定のサイクルで本試験レベルの質の高い問題を繰り返し解くことで、合格可能性がさらに高まります！

直前期(5月以降)

インプット	アウトプット
直前対策講義 9回	全国 公開模試 1回
合格情報講義 1回	
アウトプット	
実力完成答練 6回	
直前予想答練 3回	

4月期までに十分なトレーニングを積むことから、5月期からの直前期では、各種答練はもとより直前講義でも問題演習を織り交ぜて、より実践的な内容に取り組みます。また、税制改正・試験委員対策などを行い、万全の態勢で本試験に挑みます！

TAC上級コース「相続税法」

理論問題の 出題傾向

- ・2題形式で「個別理論」と「応用理論または事例理論」の組み合わせが多い。
- ・「個別理論」は各規定の精度が問われる。
- ・「応用理論」は各規定の繋がりが問われる。
- ・「事例理論」は問題からテーマを読み取ることが重要。
- ・改正論点が出題される傾向にある。

その対策 【講義】

【講義】では、各規定の詳細な解説を行うとともに、多角的なアプローチにより他の規定との繋がりを学習します。これにより、各規定の内容を理解することで個別理論の精度を高めるとともに応用理論・事例問題への対応力の向上を図ります。

その対策 【演習】

【演習】では、個別理論の精度を図るために個別理論形式の問題を多く出題するとともに、簡単な応用理論の問題や事例理論の問題を出題することで、応用理論・事例理論への基本的なアプローチの仕方及び解答方法を身に付けていきます。

計算問題の 出題傾向

- ・相続税額を求める総合問題が出題される。
- ・基礎論点中心の問題となっている。
- ・財産評価（特に「宅地」「取引相場のない株式」）をメインに正確かつスピーディに解答することが求められる。

その対策 【講義】

【講義】では、基礎論点の再確認を行うとともに、過去の本試験で出題された特殊論点についても確認していきます。これにより、本試験で合格するために必要な知識を網羅するとともに、トレーニング（問題集）を通じて理解を深めていきます。

その対策 【演習】

【演習】では、本試験と同様の基礎論点を中心に出题することで講義でのインプット進捗度を把握するとともに、応用的な論点を出題することで取捨選択を行えるようにしていきます。これにより制限時間内での効率的な答案作成力を養うことができます。

上級コース「相続税法」のカリキュラム（全49回）

基礎・応用期（4月末まで）

インプット
上級講義 15回
アウトプット
上級演習 15回

講義と問題演習を交互に実施していくことで、論点確認とアウトプット学習を通じて実践で活かせる実力を養っていきます。また、一定のサイクルで本試験レベルの質の高い問題を繰り返し解くことで、合格可能性がさらに高まります！

直前期（5月以降）

インプット	アウトプット
直前対策講義 9回	全国 公開模試 1回
合格情報講義 1回	
アウトプット	
実力完成答練 6回	
直前予想答練 3回	

4月期までに十分なトレーニングを積むことから、5月期からの直前期では、各種答練はもとより直前講義でも問題演習を織り交ぜて、より実践的な内容に取り組みます。また、税制改正・試験委員対策なども行い、万全の態勢で本試験に挑みます！

TAC上級コース「消費税法」

理論問題の 出題傾向

- ・2題形式（「個別理論」＋「応用・事例理論」の組み合わせ）で出題される。
- ・「個別理論」…用語の意義、法令の適用要件を問う。
- ・「応用・事例理論」…取引分類・区分経理等・消費税の取扱いや適用関係を中心に問う。

その対策 【講義】

【講義】では、テキスト及び理論マスターを使い、各種論点の制度趣旨から始まり基本的な内容の確認、そして応用的な論点を取り扱います。これにより条文の理解が深まり個別理論の解答精度とスピードアップを図ることができます。さらに理論ドクターでは質疑応答事例（出典：国税庁HP）を厳選し、漏れのない理論対策を実行します。

その対策 【演習】

【演習】では、上記にある試験傾向を踏まえた予想問題を提供します。豊富な問題量と様々な出題形式を経験できますので、「本試験対応力」が身につきます。何度も出題される理論は、様々な切り口で複数回出題しますので、これにより本試験で出題された場合は、悩むことなく対応でき、同時に解答スピードアップを図ることができます。なお、【講義】と【演習】は交互に実施します。したがって講義回の内容を理解しているかどうかはすぐに次の演習で確認できますので学習しやすいカリキュラムとなっています。

計算問題の 出題傾向

- ・難易度は高くないが、比較的ボリュームが多い。
- ・「取引分類」「区分経理等」が的確にできるかどうか合否をわける。
- ・総合的な理解度を求めた問題となっている。

その対策 【講義】

【講義】では、各種論点の基礎項目をテキストにおいてポイント整理形式で確認できますので、忘れていた内容もケアできます。それに加え上級コースならではの保険的要素を展開していきます。また、法令に従った計算方法を指導しますので安心です。

その対策 【演習】

【演習】では、上記にある試験傾向を踏まえた予想問題を演習していきます。トレーニングで個別論点を確認し、すべての演習を解けば重要項目である「取引分類」「区分経理等」を極められるように組まれています。また、2題形式（例えば原則課税と簡易課税）での出題が続いていますが、様々な出題形式を経験できるようにしています。さらに、TAC独自の解法メソッドで転記回数を減らせますので「大幅なスピードアップ」が実現します。これにより全体の時間配分に余裕をもって取り組めるようになります。

上級コース「消費税法」のカリキュラム（全26回）

基礎・応用期（4月末まで）

インプット
上級講義 8回
アウトプット
上級演習 8回

講義と問題演習を交互に実施していくことで、論点確認とアウトプット学習を通じて実践で活かせる実力を養っていきます。また、一定のサイクルで本試験レベルの質の高い問題を繰り返し解くことで、合格可能性がさらに高まります！

直前期（5月以降）

インプット	アウトプット
直前対策講義 4回	全国 公開模試 1回
合格情報講義 1回	
アウトプット	
実力完成答練 4回	
直前予想答練 1回	

4月期までに十分なトレーニングを積むことから、5月期からの直前期では、各種答練はもとより直前講義でも問題演習を織り交ぜて、より実践的な内容に取り組みます。また、税制改正・試験委員対策なども行い、万全の態勢で本試験に挑みます！

TAC上級コース「酒税法」

理論問題の 出題傾向

- ・一題形式で事例問題が出題(設問が3題)されることが多い。
(35分から40分程度の時間を要する問題)
- ・過去問をベースとした出題が多く、規定と合わせて、その規定が設けられている理由(趣旨)が問われることが多い。
- ・Aランク理論を題材とした事例問題が多いが、Bランク理論も一部出題されることがある。

その対策 【講義】

【講義】では、全ての個別理論を丁寧に解説していきます。本試験の事例問題に対応するためには、幅広い理論の理解が必要不可欠であるため、ランクを問わず講義で確認することで、どんな事例問題が出題されても解答できる知識を身に付けます。

その対策 【演習】

【演習】では、個別理論を中心としつつ、本試験問題に準じた平易な事例問題を出題していきます。個別理論の定着をしっかりと図り、事例問題に対応する基礎力を身に付けることで、直前期に行う本格的な事例問題対策に繋がっていきます。

計算問題の 出題傾向

- ・75分から80分程度の時間を要する問題が出題されている。
- ・過去問に類似した問題が出題されている。
- ・最終値を合わせることが出来る平易な問題が多い。

その対策 【講義】

【講義】では、本試験で頻繁に出題される基本論点を確認しつつ、応用論点も確認していきます。上級コースで出題範囲の全てを確認することになり、直前期では無理なく答案作成練習を行うことができます。

その対策 【演習】

【演習】では、最近の本試験に則した問題を出題していきます。最近の本試験問題は、ボリュームが比較的少なく、かつ、平易な問題が出題されているため、基本問題が出題された場合に最終値まで合わせることができる正確性を身に付けます。

上級コース「酒税法」のカリキュラム (全26回)

基礎・応用期(4月末まで)

インプット
上級講義 8回
アウトプット
上級演習 8回

講義と問題演習を交互に実施していくことで、論点確認とアウトプット学習を通じて実践で活かせる実力を養っていきます。また、一定のサイクルで本試験レベルの質の高い問題を繰り返し解くことで、合格可能性がさらに高まります！

直前期(5月以降)

インプット	アウトプット
直前対策講義 4回	全国公開模試 1回
合格情報講義 1回	
アウトプット	
実力完成答練 4回	
直前予想答練 1回	

4月期までに十分なトレーニングを積むことから、5月期からの直前期では、各種答練はもとより直前講義でも問題演習を織り交ぜて、より実践的な内容に取り組みます。また、税制改正・試験委員対策なども行い、万全の態勢で本試験に挑みます！

TAC上級コース「固定資産税」

理論問題の 出題傾向

- ・一題は個別、一題は応用で出題されることが多い。
- ・応用は過去問の改題であることがほとんど。
- ・計算に多くの時間を取られるため、理論に回すことができる解答時間が少ない。

その対策 【講義】

【講義】では、過去問の確認が中心になります。応用理論が本試験で出題される場合、過去問を基礎にこれを改題したと考えられる問題であることが多いため、必要な過去問についてすべて確認することで、応用理論の解答のベースとなる知識を身に着けることになります。

その対策 【演習】

【演習】では、過去問の中でも比較的難易度の低い問題を題材とした応用理論を提供することになります。難易度の高い問題に対応した練習するのは直前期。これに向けて、上級コースでは比較的難易度の低い問題の練習を行うことで、個別理論の定着と比較的難易度の低い応用理論での得点力を養うことになります。

計算問題の 出題傾向

- ・少なくとも80分ほど掛かる非常にボリュームの多い問題が出題。
- ・計算ミスをしなければ最終値を合わせることができる問題が出題。

その対策 【講義】

【講義】では、基本は押さえていることを前提としたうえで、応用的な内容や出題実績の低い論点の紹介することになります。固定資産税では、上級コースで基本的な内容の復習をしてもあまり意味がないため、基本的な内容の復習はあらかじめ予習をしてきていることを前提として、応用的な内容や出題実績の低い論点の紹介することで、出題範囲のほぼすべての学習を4月までに完了させることになります。

その対策 【演習】

【演習】では、制限時間内で十分解答可能な問題を提供することになります。近年の本試験では非常にボリュームが多い問題が出題されますが、近年の本試験と同レベルのボリュームの練習をするのは直前期。これに向けて、上級コースでは比較的ボリュームの少ない問題での練習をすることで、すべての論点で計算ミスをせず、最終値まで確実に到達できる能力を養成することになります。

上級コース「固定資産税」のカリキュラム (全26回)

基礎・応用期(4月末まで)

インプット
上級講義 8回
アウトプット
上級演習 8回

講義と問題演習を交互に実施していくことで、論点確認とアウトプット学習を通じて実践で活かせる実力を養っていきます。また、一定のサイクルで本試験レベルの質の高い問題を繰り返し解くことで、合格可能性がさらに高まります！

直前期(5月以降)

インプット	アウトプット
直前対策講義 4回	全国 公開模試 1回
合格情報講義 1回	
アウトプット	
実力完成答練 4回	
直前予想答練 1回	

4月期までに十分なトレーニングを積むことから、5月期からの直前期では、各種答練はもとより直前講義でも問題演習を織り交ぜて、より実践的な内容に取り組みます。また、税制改正・試験委員対策なども行い、万全の態勢で本試験に挑みます！

TAC上級コース「事業税」

理論問題の 出題傾向

- ・第一問は個別理論問題、第二問は応用理論問題による出題で、その内容は安定的なものとなっている。
- ・応用理論問題は、過去の本試験問題の改題が多いため、十分な対策をとって本試験に臨むことができる。
- ・理論問題の配点が高い年が多いため、理論の時間配分は60分程度と想定される。

その対策 【講義】

【講義】では、本試験での出題頻度が高い論点について、細かい部分も含め解説します。また、実際の過去問題を題材にして、その解答作成方法について、受講生とともに研究・検討するカリキュラムとなっています。

その対策 【演習】

【演習】では、基礎論点である個別理論を中心とした問題を出題を予定していきます。これは、応用理論とはいえ、合格答案が個別理論の集合体となる場合が多く、各受験生の武器となる個別理論の暗記を進めることを目的としています。

計算問題の 出題傾向

- ・合格答案作成には、最終値の正解は不要と想定される。
- ・計算問題は、難度のピークが平成24年頃であり、近年は比較的平易な内容が出題されている。
- ・法人事業税中心の出題傾向であるが、近年は個人事業税の計算問題の出題頻度も増している。

その対策 【講義】

【講義】では、レギュラー・速修コースとは異なり講義の回数が半数程度となっているため、基礎論点の解説にウエイトを置かず、本試験に直結する論点を中心に解説します。したがって、レギュラー・速修コースでは不要とされる予習も各受講生の状況に応じて必要となる場合があります。

その対策 【演習】

【演習】では、学習内容の進捗状況にあわせて、開講直後は平易な問題を出題し、直前期・答練期が近づくにつれ、本試験を意識した問題を出題していきます。これにより、直前期には、過去の本試験問題をひと通りこなせる様な実力が身に付き、大きなアドバンテージをもって本試験に臨むことができます。

上級コース「事業税」のカリキュラム (全26回)

基礎・応用期(4月末まで)

インプット
上級講義 8回
アウトプット
上級演習 8回

講義と問題演習を交互に実施していくことで、論点確認とアウトプット学習を通じて実践で活かせる実力を養っていきます。また、一定のサイクルで本試験レベルの質の高い問題を繰り返し解くことで、合格可能性がさらに高まります！

直前期(5月以降)

インプット	アウトプット
直前対策講義 4回	全国 公開模試 1回
合格情報講義 1回	
アウトプット	
実力完成答練 4回	
直前予想答練 1回	

4月期までに十分なトレーニングを積むことから、5月期からの直前期では、各種答練はもとより直前講義でも問題演習を織り交ぜて、より実践的な内容に取り組みます。また、税制改正・試験委員対策なども行い、万全の態勢で本試験に挑みます！

TAC上級コース「住民税」

理論問題の 出題傾向

- ・個別問題中心の出題。
- ・応用は過去問の改題であることがほとんどである。
- ・解答範囲が広く、ボリュームの多い出題。

その対策 【講義】

【講義】では、規定の基本的な理解が中心になります。また、過去問の出題実績も確認します。応用理論が本試験で出題される場合、過去問を基礎にこれを改題したと考えられる問題であることが多いため、必要な過去問についてすべて確認することで、応用理論の解答のベースとなる知識を身に付けることになります。

その対策 【演習】

【演習】では、過去問の中でも比較的難易度の低～中くらいの問題を題材とした応用理論を提供することになります。難易度の高い問題に対応した練習するのは主に直前期ですが、これに向けて、上級コースでは比較的難易度の高すぎない問題の練習を行うことで、個別理論の定着と比較的難易度の低い応用理論での得点力を養うことになります。

計算問題の 出題傾向

- ・少なくとも80分ほど掛かる非常にボリュームの多い問題が出題。
- ・計算ミスをしなければ最終値を合わせることができる問題が出題。
- ・過去の本試験問題に類似した出題。

その対策 【講義】

【講義】では、基本論点をひと通り確認したうえで、応用的な内容や出題実績の低い論点についても紹介していきます。本試験でも過去の出題に類似した問題が出題されるため、基礎を反復して学習することで合格に必要な力を身に付けていきます。

その対策 【演習】

【演習】では、本試験で出題が予想される論点を中心に、制限時間内で解答できる適度なボリュームの問題を出題します。これを通じて、すべての論点で計算ミスをせず、最終値まで確実に到達できる能力を養成していきます。なお、直前期には、近年の本試験で出題されているようなボリュームが多い問題についても繰り返し練習し、万全の態勢で本試験に臨むことができます。

上級コース「住民税」のカリキュラム (全26回)

基礎・応用期(4月末まで)

インプット
上級講義 8回
アウトプット
上級演習 8回

講義と問題演習を交互に実施していくことで、論点確認とアウトプット学習を通じて実践で活かせる実力を養っていきます。また、一定のサイクルで本試験レベルの質の高い問題を繰り返し解くことで、合格可能性がさらに高まります！

直前期(5月以降)

インプット	アウトプット
直前対策講義 4回	全国 公開模試 1回
合格情報講義 1回	
アウトプット	
実力完成答練 4回	
直前予想答練 1回	

4月期までに十分なトレーニングを積むことから、5月期からの直前期では、各種答練はもとより直前講義でも問題演習を織り交ぜて、より実践的な内容に取り組みます。また、税制改正・試験委員対策なども行い、万全の態勢で本試験に挑みます！

TAC上級コース「国税徴収法」

理論問題の 出題傾向

- ・単なる個別理論を記述させるのではなく、「制度趣旨」や「（手続）規定を定めた理由」などを述べさせる問題が多くなっている。
- ・過去の本試験において何度も出題されている典型論点はもとより、改正論点からも出題されている。
- ・制限時間内に解答することは十分可能であるが、答案用紙に指定された解答箇所の行数が少な目であるため、冗長な記述を避けなければならない。

その対策 【講義】

【講義】では、国税通則法及び国税徴収法の主要論点について、「内容説明」はもちろんのこと、各制度の「趣旨（目的）」にも重きを置いて説明していきます。また、「手続規定」について、「何故、そのような手続を執るのか」という「理由」にもできる限り言及していきます。

その対策 【演習】

【演習】では、典型論点について、「個別理論問題」「応用（事例）理論問題」だけでなく、「制度趣旨」や「（規定を設けた）理由」についての出題も試みていきます。これにより、理解力や応用力を養うことができます。

計算問題の 出題傾向

- ・ここ数年、丸一問という形式で例示計算問題が出題されていない。
- ・事例問題の中で、「徴収見込額」を求めさせる問題が随所に見受けられるようになった。そして、「徴収見込額」を求めるに至った「理論的根拠」も併せて述べさせる傾向がある。

その対策 【講義】

【講義】では、典型論点について、「個別理論問題」「応用（事例）理論問題」だけでなく、「制度趣旨」や「（規定を設けた）理由」についての出題も試みていきます。これにより、理解力や応用力を養うことができます。

その対策 【演習】

【演習】では、ただ単に「徴収見込額」や「配当金額」を解答させるだけでなく、これらを導き出すための「要件」「手続」及び「根拠（理由）」も述べさせる問題も出題していきます。これにより、実践力を養うことができますようになります。

上級コース「国税徴収法」のカリキュラム（全26回）

基礎・応用期（4月末まで）

インプット
上級講義 8回
アウトプット
上級演習 8回

講義と問題演習を交互に実施していくことで、論点確認とアウトプット学習を通じて実践で活かせる実力を養っていきます。また、一定のサイクルで本試験レベルの質の高い問題を繰り返し解くことで、合格可能性がさらに高まります！

直前期（5月以降）

インプット	アウトプット
直前対策講義 4回	全国 公開模試 1回
合格情報講義 1回	
アウトプット	
実力完成答練 4回	
直前予想答練 1回	

4月期までに十分なトレーニングを積むことから、5月期からの直前期では、各種答練はもとより直前講義でも問題演習を織り交ぜて、より実践的な内容に取り組みます。また、税制改正・試験委員対策なども行い、万全の態勢で本試験に挑みます！

受講前サポートのご案内

12/10(月)
より

「受験経験者対象」
本試験攻略セミナー
(Web配信)

近年の税理士試験の出題傾向を TAC講師が分析・解説！

▶対象科目:簿記・財表・法人・所得・相続・消費◀



当セミナーでは、近年の税理士試験の出題傾向を分析・解説するとともに、試験対策上の重要ポイントを紹介！上級コースの学習上のアドバイスをお伝えいたします。

動画の視聴はこちら



https://www.tac-school.co.jp/kouza_z_eiri/tacchannel.html

12/10(月)
より

無料体験入学

冬入学「速修コース」「上級コース」の 講義の進め方、分りやすさを知ろう！

▶全11科目で実施◀



初回講義は、お申込み前でも無料で講義を体験できます。講義の分かりやすさだけでなく、講師の熱意や校舎の雰囲気をは是非体感してください！

体験入学の日程はこちら



https://www.tac-school.co.jp/kouza_z_eiri/zeiri_gd_gd.html



TAC動画チャンネルからも
12/10(月)より体験講義を配信！

上級コース・速修コースの詳細は、パンフレットやホームページをご確認ください

上級コース



https://www.tac-school.co.jp/kouza_zeiri/zeiri_crs_jokyu.html

速修コース



https://www.tac-school.co.jp/kouza_zeiri/zeiri_crs_soku-1.html



コースのお問合せや、資料のご請求はこちら

通話
無料

0120-509-117

[月曜～金曜] 9:30～19:00
[土・日・祝] 9:30～18:00



<https://www.tac-school.co.jp/seikyu/seiky.html>